



## PROJECT

### 妊産婦と子どもの 栄養改善のために

#### 栄養指導が実を結ぶ

2021年12月に日本政府が主催した東京栄養サミット2021には各国政府や国際機関、企業、市民社会のリーダーが参加し、栄養改善に向けた取り組みを強化していく機運が高まっています。

グアテマラは、中南米のなかでも特に子どもの栄養状態が悪く、妊産婦死亡率も高いことが問題となっています。2016年、状況が深刻なキチェ県で、JICAは「妊産婦と子どもの健康・栄養改善プロジェクト」を開始しました。

胎児から2歳までの「最初の1000日」に適切な栄養を摂取することは、子どもの一生に大きく影響します。プロジェクトでは、妊婦に必要な食事や離乳食をイラストで紹介する「私の栄養カレンダー」

などの栄養指導ツールの開発、コミュニティへの啓発活動、保健人材の育成に取り組みました。

#### コロナ禍へも迅速に対応

そこに襲ってきた新型コロナウイルスの世界的な感染拡大。プロジェクトの活動も大きな影響を受けました。

もちろん、どのような状況下でも妊娠・出産はあり、栄養指導の重要性が失われることはありません。プロジェクトでは、高血圧症や糖尿病など持病のあるハイリスク妊婦への栄養指導や感染予防・管理の研修を追加的に実施しました。また研修後のフォローアップとして、保健管区事務所の担当者らが現場をモニタリングし、電話で助言するなど、コロナ禍においても継続的に活動に取り組みました。

さらに、住民に身近なラジオを使い、母子保健・栄養、感染予防やワクチン接種を促す情報を発信したほか、離乳食の作り方を紹介する動画も制作しました。

2016年に開始したプロジェクトを通じて、母子の健康と栄養改善のための保健サービスが浸透してきました。その結果、子どもの栄養状態や妊産婦死亡率の改善につながる生後6カ月までの完全母乳育児と適切な離乳食への移行、また妊婦の適切な体重管理が可能となりました。



グアテマラ：フードモデルを使った  
栄養士による妊婦への食事教育

## DATA

妊産婦と子どもの健康・栄養改善  
プロジェクト

対象国  
グアテマラ

協力期間  
2016年6月-2021年9月

## VOICE

### 保健省や現場担当者から高い評価を得ました



JICA専門家  
アイ・シー・ネット株式会社 菱田裕子さん

現場で役立つツールや教材の開発、人材育成のための研修を支援し、保健省や保健管区事務所の担当者から高い評価を得ることができました。栄養改善は短期間で目に見える成果を得るのは難しいのですが、プロジェクトで取り組んだ活動が継続されることで、必ず妊産婦と子どもの健康や栄養状態が大きく改善されると信じています。